

勝利争闘ジェット塚三里！ 砕粉革行・調臨

# 労働強化を要求する反階級的な運動を 「労働強化」を要求する「労働会議」

## 労働本部 第40回全国大会方針を弾劾する

動労「本部」は七月一七日から二〇日まで秋田市において第40回定期全国大会を開催します。仁杉国鉄総裁の「一時帰休制導入」「国鉄分割・民営化賛成」発言により、国鉄労働運動の行く末をかけた決戦期が到来している今日、大会ではこれに総力で立ちむかい、反撃に決起する方針がうちたてられなければなりません。

ところが、動労「本部」方針はなんと「労働強化」「労使会議」を要求する「経営参加」「産報化」路線を鮮明化させ、国鉄労働者を売りわたすことで生きのびようとするファシスト運動の全面化を宣言するものとなっています。

われわれは、こうした反動方針を弾劾するとともに、革マル反動分子の一扫と、動労大改革にむけた国鉄労働者の総決起を強く訴えるものです。

### 「産報化」へ大きく前進

昨年の八月、動労「本部」の「冬の時代」情勢が厳しいから職場と仕事と生活を守るために、働き度高め合理化に協力しよう」との大会方針が労使協定の裏切り方針であることを暴露し、弾劾してきました。

われわれが指摘したとおり、動労「本部」革マルは「昇給協定」「59・2ダイ改」「動乗勤」等の闘いをことごとく裏切り「三万人の過員」づくりに最大の「貢献」をしてきたばかりか、今大会ではついに「労働強化」を前提にした「労使会議」の要求運動を路線化し、「経営参加」「産報化」の道をもう一步大きく踏みだしたのです。

### 「労使会議」要求運動が唯一の「たたかい」

動労「本部」方針は「運動の基調」の中で次のように主張しています。

まず、「59・2ダイ改を契機とした膨大な『過員』状況と、当面それへの対応はわれわれのたまたかによって最悪事態を阻止しえた」と。

「働こう運動」路線のもと、「59・2」の裏切りによって発生した「過員問題」をタナにあげ、「最悪事態を阻止しえた」等と「評価」する動労「本部」革マルの「たたかい」とは一体どういふものなのでしょうか。

すなわち、「『国鉄労使悪玉論』によって包囲された世論を逆包囲するたたかいが重大であり、『反対のみ』の運動として終始するかぎり情勢を切り拓けない」とし「自らの身を削ることをつうじてのみはじめて展望が切りひらかれる」と主張

するのです。

つまり、今日の「国鉄」攻撃を支配階級の危機突破をかけた国鉄労働運動解体攻撃であるとの視点をもたないがゆえに「労使一体となって国鉄を再建しよう」「労働強化を要求して仕事を確保しよう」との「労資協調」の反労働者の路線にいきつくのです。

従って「運動の基調」の結論は、「『事前協議制度』ともいえる労使間における『新たな会議』の設定、それは『国鉄再建フォーラム』の具体化である」とし、この「国鉄再建フォーラム」こそ「国鉄を国鉄として存置させ、組合員の利益を守る取り組みの場」"たたかい"ということになるのです。

### 真正正銘の「経営参加」「産報化」路線

動労「本部」革マルは、「労使会議」要求運動なる反動的路線に対する労働者の猛反発を恐れるがあまり、「経営参加の歴史的経緯、運動論、組織論を検討した『労使会議』」だから、「経営参加」や「産報化」などと弾劾しないでくれと、必死で弁解しています。

しかし、未曾有の国鉄労働運動破壊攻撃と何ひとつ闘う方針をうち出さず、「自らの身を削ってでも仕事を確保する」との「労働強化」を要求したうえで当局に「話し合い」を求めるといふ路線が「労資協調」「経営参加」「産報化」でなくってなんなのでしょうか。

こうした反階級的運動に組合員を動員し、革マルとしての延命をはかる動労「本部」全国大会方針を国鉄労働者の怒りで粉碎しようではありませんか。

（以下、次号へ続く）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！